

入院診療計画書(結腸切除術を受ける患者様へ)

ID番号 @PATIENTID

氏名 @PATIENTNAME 様

症状 @PATIENTWARD 病棟

@PATIENTROOM 号室



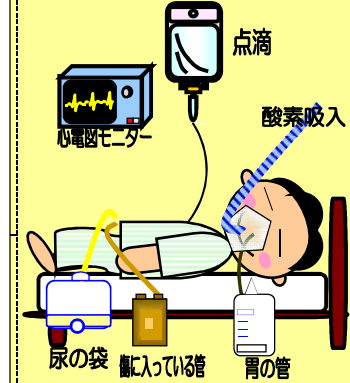



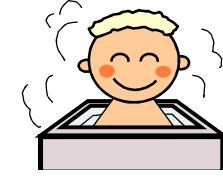




病名(他に考える病名)

担当医師 @USERNAME 印

担当看護師

担当薬剤師

@SYSDATE

月日	入院日(/)	術前日(/)	手術日(/)		術翌日	術後2日~4日目	術後5日目	術後6日~8日目	退院日
			術前	術後					
経過	 入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。術前準備を行います	()時に手術室へ移動します	術後は病室にもどります	水分開始になります	食事開始になります			退院 
目標		術前日の流れ □おへその掃除をします	手術室へ行くまでの流れ □麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください		ベッド上でも、できるだけ動くようにしましょう。日常生活もリハビリの一部です。	安全にリハビリをすすめてみましょう。食事の摂取方法を覚えましょう		安全に、日常生活のリズムを戻していきましょう	
検査	手術に必要な検査をします	□入浴 □肩に名前を書きます(医師)	□前あきの下着、病院のジャマに着替えてください	手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します	採血 レントゲン(お部屋でとります)	必要に応じて採血 レントゲン			
処置	処置はありません	□点滴 □14時 下剤の服用 □手術の準備品の確認 □21時 下剤の服用 心配なときは、ポータブルトイレを用意します	□弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します) □義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。 □貴重品は、ご家族の方へお渡しください □女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。 □髪の長い方は2つに結び、ヘアピンは外してください	痛いときは、がまんせずに教えて下さい 	酸素が終了します 心電図モニターが外れます 鼻から入っている管が抜けます 尿管が抜けます	痛み止めの管が抜けます 創部の管が抜けます	点滴が終了します	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。 	
注射	注射はありません								定期受診は忘れずに 行なうようにしましょう。
内服	薬剤師と看護師が、内服薬を確認します 				立ちましよう 足踏みましよう	どんどん歩きましょう	薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。		次の受診日まで必要な分のお薬が処方されます
食事	手術前日まで、食事制限はありません 	月 日 時~絶食 月 日 時~絶飲食			初めて歩行する時は、看護師が付き添います 術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります				職場復帰、旅行などは、医師に相談して下さい
清潔行動	活動、入浴に制限はありません		病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。	足の底背屈運動を行って下さい 血栓予防になります 	シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。	食事を摂取しない間も、口の中は清潔にしましょう	シャワーの時は、きずの部分をごすらずに、シャワーで流すようにしましょう	入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。 	
説明	病棟での日常生活を説明します 手術の予定を説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります			鼻の管が抜けたら、水分摂取が可能になります 最初は、ジュースや牛乳ではなく、水やお茶をおすすめします	食事は、食べ過ぎないように注意してください。よく噛んで食べて下さい			□次回予約票が渡されます □リハビリを外します
腸の手術方へ受けられる	スーフル呼吸訓練を行ってください 		腸には、食品の栄養分が吸収された後の残渣物から水分を吸収し、便を作る働きがあります。手術によって腸が短くなり、腸の中に残渣物が留まる時間が短くなったため、下痢に傾いたり便秘に傾いたり、排便の調節が難しくなっています。 腸閉塞が起きやすい状態になっていますので、食生活に十分に気をつけて、排便調節をしていく必要があります。	食事について… 偏食をさけ、バランスのとれた食事を心がけて下さい。以下の食べ物は、控えるかよく噛んで食べて下さい。 ・熱すぎたり、冷たすぎたりする食べ物 ・刺激の強い食べ物…香辛料・わさびなど ・消化の悪い食べ物…イカ・たこ・するめ・キノコ類・海藻類など その他 ・下痢になりやすい食べ物…冷たい牛乳・天ぷら類・アルコール・アイスクリームなど ・便秘を予防する食べ物…野菜類・バナナ・プルーン・果物		便秘のときは… ・腹部「の」の字を描くようにマッサージする。 ・水分を多めにとり、食物繊維の多い食品をとる。 食物繊維の多い食品→パン・玄米・豆・芋類・果物・バナナなど ・下剤の乱用は慎む。	下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き・ほっかいる使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給する。 ・暖かい消化の良い食べ物を摂取する。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控える。 ・下痢止めの薬の乱用は慎む		

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。

注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。

特別な栄養管理の必要性
有 ・ 無

上記内容について説明を受け同意いたしました

署名:

続柄: